

GLOBAL MAPPING NEWSLETTER

第10号

目次

1. 地球地図フォーラム'98、リモートセンシングのメッカで開催される
2. 第4回地球地図国際運営委員会会合
3. 地球地図の仕様についてコメントを求めます
4. 地球地図プロジェクトへの参加呼びかけが近づく
5. 東南アジアの地球地図に関する会合
6. 新しい「地球地図パンフレット」と「地球地図ブックレット」が出来あがった
7. 地球地図及び関連の会合予定



地球地図フォーラム '98、リモートセンシングのメッカで開催される

「地球地図フォーラム'98— 21世紀のための情報—」が1998年6月15日～

18日まで米国サウスダコタ州スーフォールズの米国地質調査所EROSデータセンターで開催された。本フォーラムには15カ国から62名が参加した。

本フォーラムは、昨年岐阜で行われた「地球地図フォーラム'97 in 岐阜」につづく2回目の地球地図フォーラムであり、その目的はデータの利用者、提供者を一堂に会し、地球地図について意見や情報の交換を行うことである。

6月16日(火曜日)、EROSデータセンター所長のラウアー博士とISCGM(地球地図国際運営委員会)事務局長の永井信夫氏の歓迎挨拶により地球地図フォーラム'98の幕が開いた。

アンダーソン博士は、地球規模地理データの現状を良く知ること、国家地図作成機関、大学、国際学協会等の間で協力関係を構築すること等、本フォーラムの目的を述べた。基調講演に立ったラブランド氏は近年の地球規模の陸域地図データ作成において成し遂げられたこと、特に最近整備された全地球土地被覆データベースについて講演した。基調講演につづいて、持続可能な開発と物理・社会経済データの統合等、特定のテーマについて11の発表が行われた。

6月17日のフォーラムのプログラムは、スウィフト氏のISCGMの仕様ワーキンググループの活動報告で開始された。スウィフト氏につづき、政春氏が地球地図の小冊子を紹介し、地球地図の利用が期待される事例について述べた。環境監視・評価・管理をテーマとする発表の後で、ホランド氏を座長として本フォーラムのテーマ全般に関するパネルディスカッションが行われた。良質の地球規模データセットの不足、地球地図の更新のための新しいテクノロジー、地球地図の利用促進のためのデータ・メタデータの標準化の必要性等、いくつかの問題が提示された。

午後、ラウアー博士の司会で、21世紀の地図作成の課題についてのパネルディスカッションが行われた。国土地理院の野々村邦夫氏、USGSのウィットマー博士、中国国家測絵局(NBSM)のヤン・カイ教授の3名のパネリストは、全員がISCGMの委員であり、強力に地球地図プロジェクトを支持し、地球規模の活動が21世紀の国家地図作成機関の核となる活動であるべきと力説した。

最後に、ISCGM委員長エステス教授の熱のこもった挨拶で地球地図フォーラム'98の幕が閉じられた。

フォーラムの開会に先立ち、6月15日(月曜日)にISCGMワーキンググループの会合とEROSデータセンターの見学が行われた。膨大な衛星データと空中写真がEROSデータセンターの地下に保管されており、参加者を驚かせた。6月18日には、第4回ISCGM会合が行われた。

第4回地球地図国際運営委員会会合

第4回地球地図国際運営委員会会合が1998年6月18日にEROSデータセンターの会議室で行われた。米国、UCSBのジョン・E・エステス教授が本委員会の委員長に選出され、アブドゥル・マジッ氏が副委員長、永井信夫氏が事務局長、村上広史博士が事務局次長に指名された。ISCGMの委員9名を含む26名が委員会に参加し、地球地図の仕様の発展と世界の国家地図作成機関への地球地図プロジェクトへの参加呼びかけについて、主に討議した。その結果、委員会は以下の決議を採択した。

第4回地球地図国際運営委員会決議 (仮訳)

第4回地球地図国際運営委員会(以後、「委員会」と称する)は、1998年6月18日に開催された。委員会では、前回の会合で採択された技術仕様案及び行動計画に基づき、西暦2000年までの地球地図の整備についてさらに討議を行い、次のとおり決議した。

1. 委員会と国家地図作成及び関連機関は、これまでの委員会会合の決議及び改訂された行動計画と技術仕様を踏まえて、西暦2000年までを目標とする地球地図整備に向かってできるだけ早く具体的な行動をとり、全地球空間データ基盤(GSDI)のために基礎となるデータセットを提供する。
2. 委員会は、国連と協力して国家地図作成及び関連機関に対して委員会で採択される招待文書を送付し、地球地図プロジェクトへの参加を呼びかける。
3. 委員会は、リモートセンシング・データの利用をさらに促進するために、宇宙関連機関と協力する。
4. 委員会は、西暦2000年以降の地球地図に関し、地球地図の維持管理のための具体的な機関の設置をめざして戦略計画案の作成に着手する。
5. 地球地図プロジェクトの参加者は、本取り組みへの開発途上国の参加を促進するために、人材育成への取り組みの支援を強化する。
6. 技術仕様に関連して、
 - a. 地球地図仕様案第2版が採択された。
 - b. 地球地図仕様案第2版を、インターネットの地球地図ホームページから参照できるようにする。
 - c. 作業部会は、特に次の分野で引き続き仕様の作成を行う。
 - i. 地球地図整備と仕様のよってたつ基本方針について述べる。
 - ii. 作成されるデータセットはどのような利用を想定しているのか述べる。
 - iii. 第3回ISCGMで採択された仕様(以後、仕様第1版と称する)と仕様第2版との間で隔たりのある課題に取り組む。
 - iv. ISCGMの委員及び広範な地図作成界の意見に対応するとともに、ISO/TC211の標準化結果を取り込む。
 - d. ISCGMの委員は、仕様に基づいたデータ作成を実施するとともに、積極的に核となるデータセット(VMAPO、GTOPO30、Global Land Cover Characteristics Database)の評価を行う。これに係わる具体的な行動は次のとおりである。
 - i. 仕様作業部会は、評価を行うためのガイドラインを作成する。
 - ii. 事務局は、委員が評価を行う際に支援が必要な場合には進んで援助する。
 - iii. それを行う能力のある委員は、仕様に基づいたデータの供給に速やかに着手する。
7. 新たに設置される作業部会は次の事項に取り組む。
 - a. 地球地図成果の利用方針についての枠組みづくり
 - b. 想定される利用者と利用目的を明確にすること。応用例によっては後援者を含めて考える。
 - c. 国家地図作成機関によるデータセットの提供のためのガイドラインの整備及び地球地図の配布用編集及び配布の調整
8. 委員会は、次回のをオーストラリア測量土地情報局の主催により、1998年11月20日にオーストラリアのキャンベラにおいて開催する。
9. 委員会は、米国地質調査所EROSデータセンターが、米国スーフールズにおいて地球地図フォーラム'98及び第4回地球地図国際運営委員会を主催し、大成功を収めたことに心から感謝する。

地球地図の仕様についてコメントを求めます

地球地図技術仕様案の作成を引き続き行うためのワーキンググループが、昨年11月に岐阜で開催された第3回地球地図国際運営委員会会合において設立された。本ワーキンググループは、現在、技術仕様案を発表し、世界中の仲間からのコメントを求めている。

オーストラリア人のピーター・ホランド氏が座長に任命され、参加の呼びかけの後で、下記の方々が本ワーキンググループのメンバーとなった。(敬称略)

- ・ジアン・ジントン 中国
- ・アバス・ラジャビファード イラン
- ・丸山弘通/田中庸夫 国土地理院
- ・アラン・スウィフト オーストラリア
- ・ジョバンナ・ロレンシン オーストラリア

仕様案はインターネット上に掲載され、アドレスは下記の通りです。

http://www.auslig.gov.au/mapping/global_m/spec.htm

これについてコメントを求めます。

原案を作成したオーストラリア測量土地情報局のロレンシンとスウィフトの二人によると、本プロジェクトの規模と完成目標時期を考慮して、できるだけ作成しやすい仕様としたとのことである。

本案は、各段階でワーキンググループのメンバーにE-メールが送られ、コメントが求められた。本ワーキンググループは、6月18日に米国のスーフォールズで開催された第4回地球地図国際運営委員会に参加し、本案は同委員会会合の文書とともに配布された。

「これは、さらに発展すべき文書であると考えます。本仕様は、部分的にはより詳細にする必要があると思います。また、地球地図プロジェクトが具体化するにつれて変更する必要があるかもしれません。地球地図に興味のある方は誰でも、仕様作成のすべての過程で意見を述べて下さるようお願いします。利用者側からの意見は、本プロジェクトの長期的な成功のために不可欠です。」とアラン・スウィフトは述べた。

ジョバンナ・ロレンシン
オーストラリア測量土地情報局

地球地図プロジェクトへの参加呼びかけが近づく

西暦2000年までに地球地図の整備を行うためには、できるだけ多くの国家地図作成機関の参加が必要である。第4回ISCGM会合の第2項の決議に従い、ISCGMは国連と協力して国家地図作成機関及び関連の機関に対して地球地図プロジェクトへの参加を呼びかける文書を送る予定である。

地球地図プロジェクトは、参加を促進するために、第3回ISCGMで採択された行動計画案で述べるとおり、3種類の参加形態を持つ。レベルBの機関は、自国の地球地図データを整備し、レベルCの機関は、地形図等、地球地図整備に必要な資料を地球地図国際運営委員会に提供する。レベルAの国々は、自国のみならずレベルCの国々の地球地図の整備も行う。

多くの機関の参加が期待される。

貴機関の参加が地球を救う!

東南アジアの地球地図に関する会合

国土地理院は、3月17日から19日までつくば市において、東南アジアの地球地図に関する会合を開催した。国土地理院が1998年度の予算で地球地図整備を行う予定の、フィリピン、タイ、ベトナムの代表が参加した。

3名の代表は、地球地図プロジェクトに非常に協力的であり、正式な手順を経た後地球地図整備に関する国土地理院との協力を開始することを確認した。

新しい「地球地図パンフレット」と「地球地図ブックレット」が出来あがった

新しい地球地図パンフレット」と「地球地図ブックレット」が完成し、6月16日からスーフールズで開催された地球地図フォーラム'98及び第4回地球地図国際運営委員会において配布された。今後インターネットにものせる予定である。入手を希望される方は事務局まで。

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合予定です。“?”マークの会合は未確定である。

1998年

- ・9月24日～25日、中国、北京
第7回ISO/TC211本会議
- ・11月17日～19日、オーストラリア、キャンベラ
PCGIAP主催第3回GSDI会議
- ・11月20日、オーストラリア、キャンベラ
第5回ISCGM

1999年

- ・3月4日～5日、オーストリア、ウィーン
第8回ISO/TC211本会議
- ・4月19日～23日、中国、北京
第5回PCGIAP会議
- ・7月、英国、ケンブリッジ
ケンブリッジ会議
- ・8月14日～21日、カナダ、オタワ
第19回国際地図学会議
- ・9月29日～30日、日本、京都
第9回ISO/TC211本会議
- ・9月/10月、米国 ワシントンDC
ナショナルジオグラフィック協会主催
新しい世紀の地図作成?

[本号のニュースレターの先頭 に戻る](#)

[地球地図ニュースレター目次 に戻る](#)

URL: http://www1.gsi-mc.go.jp/isccgm-sec/news/ns_lttr_jpn-10.html
[Any comments or requests are appreciated.](#)

Last modified: September 10, 1999